

講義要綱

【授業科目名】	生物学	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	前期
【学科】	柔道整復科	【講師名】	竹村朝子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
				【単位数】	2		
【一般目標:GIO】 柔道整復師の資格を習得する上で必要な専門科目を履修するために、その基礎となる科学的、生物学的知識を習得する。その他、一般生活における科学的教養を高めることを二儀の目標とする。							
【行動目標・到達目標:SBO】 生物の仕組みを理解し、疾病に関わる専門科目の理解を深めることが出来る。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 科学基礎 2: 生物学基礎 3: イントロダクション「生物学とは」 4: 「生命を支える分子」 5: 「細胞」「単細胞生物と多細胞生物」「組織と器官」 6: 「細胞のはたらきについて」 7: 「エネルギーと代謝」 8: 「細胞の一生」「細胞の種類」「細胞分裂」 9: 「配偶子形成」「生殖の種類」 10: 「受精」「カエルの発生」 11: 「ヒトの初期発生」 12: 「古典的遺伝学」 13: 「分子遺伝学」 14: 「遺伝学の応用」 15: 試験問題の解説および総復習							
【テキスト】 改訂版「視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録」 監修 鈴木孝仁 数研出版							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし。							

講義要綱

【授業科目名】	組織学	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	後期		
【学科】	柔道整復科	【講師名】	竹村朝子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30	【単位数】	2
【一般目標:GIO】									
柔道整復師の資格を習得する上で必要な組織学の基礎的知識を習得し、さらに、専門科目を履修するための発展的学習を行う。									
【行動目標・到達目標:SBO】									
組織の仕組みを理解し、疾病に関わる専門科目の理解を深めることができる。									
【 授 業 計 画 】									
<前期>				<後期>					
				1:「組織学基礎」 2:「細胞と細胞小器官」 3:「血球」 4:「結合組織1」 5:「結合組織2」 6:「上皮1」 7:「上皮2」 8:「筋」 9:「神経組織1」 10:「神経組織2」 11:「神経系1」 12:「神経系2」 13:「骨組織」「軟骨組織」 14:「各器官系の特徴について」 15:「試験問題の解説および総復習」					
【テキスト】									
改訂版「視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録」 監修 鈴木孝仁 数研出版									
【成績評価方法】									
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。									
【授業実施上の留意点】									
特になし。									

講義要綱

【授業科目名】	医療コミュニケーション	【分野】	基礎科目	【学年】	1年	【学期】	前期
【学科】	柔道整復	【講師名】	松野俊夫	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
【単位数】	2						
【一般目標:GIO】 臨床活動に必要とされる患者理解のための心理学及びコミュニケーションスキルについて学習する。患者になることによる心理的变化の理解、患者との信頼関係の形成、傾聴の態度などについて理解し説明できることを目標とする。							
【行動目標・到達目標:SBO】 ①人間関係の中のやり取りについて説明出来る。②ラポールについて説明出来る。③傾聴について説明出来る。④受容と共感について説明出来る。⑤医療面接について説明出来る。⑥病者とのコミュニケーションについて説明出来る。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 人間関係の基礎(人間の認知特性) コミュニケーションの基礎 2: 人間関係の分析①(交流分析法:ストローク欲求と行動) コミュニケーションの基礎 3: 人間関係の分析②(交流分析法:自我の構造とやり取り) 人間関係とコミュニケーション 4: (単方向のコミュニケーションと両方向のコミュニケーション) 5: 医療面接の技法①医療面接の実際 6: 医療面接の技法②様々な質問法 7: 医療面接の技法③治療者の態度 8: 医療におけるコミュニケーション①患者を取り巻く環境 9: 医療におけるコミュニケーション②信頼関係の構築(1) 10: 医療におけるコミュニケーション③信頼関係の構築(2) 11: 医療におけるコミュニケーション④ラポールの構築(1) 12: 医療におけるコミュニケーション⑤ラポールの構築(2) 13: 医療におけるコミュニケーション ⑥指示的なコミュニケーション 14: 医療におけるコミュニケーション ⑦受容的なコミュニケーション 15: 試験の解説と総復習							
【テキスト】 プリント配布							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たしたものに対し、学期末の筆記試験において評価する。							
【授業実施上の留意点】 座学だけでなく実習なども取り入れ「体験して考える」講義とする。							

講義要綱

【授業科目名】 栄養学	【分野】 基礎	【学年】 1年	【学期】 後期
【学科】 柔道整復科	【講師名】 鈴木ルミ子	【授業コマ数】 15	【授業時間数】 30
【単位数】 2			
【一般目標:GIO】 治療効果を高め、また患者の生活指導に役立つ栄養学について学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBO】 栄養学の知識を持ち患者の生活指導に役立てるようになる。			
【 授 業 計 画 】			
<前期>		<後期>	
		1: 栄養学基礎 2: 五大栄養学と各食品の特徴① 3: 五大栄養学と各食品の特徴② 4: 五大栄養学と各食品の特徴③ 5: 五大栄養学と各食品の特徴④ 6: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 7: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 8: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 9: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 10: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 11: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 12: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 13: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 14: 栄養学まとめ 15: 試験問題解説	
【テキスト】 教科書:改訂新版「いちばん詳しく、わかりやすい!栄養の教科書」 新星出版社 中嶋洋子著 参考書:東洋療法学校協会編「衛生学・公衆衛生学」「生理学」「臨床医学各論」			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 特になし			

講義要綱

【授業科目名】	英語	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	前期
【学科】	柔道整復科	【講師名】	山川より子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
				【単位数】	2		
<p>グローバルな時代を迎え、医療の現場でも外国人の方々と接する機会が増えてきている。また、最新の医学論文は英文で記されていることが多い。コミュニケーションの手段と医学知識の吸収のためにも、医療の現場で用いられる、英語の専門用語や表現を十分に理解し修得する。</p>							
<p>【行動目標・到達目標:SBO】 医療現場の英語に習熟し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。</p>							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
<p>1: 講義概要の説明／自己紹介 (speaking & writing)/ ①Parts of the Body(1)</p> <p>2: ①Parts of the Body(2)/ ①の補足 (人体各部の形容詞形・連結形)</p> <p>3: ②Basic English Conversation in the <i>Shinkyuin</i>, <i>Sekkotsuin</i>, Clinic etc. 1.Making an appointment 2.At the entrance</p> <p>4: ②3.At the reception desk</p> <p>5: ②4.Preliminary examination(1)</p> <p>6: ②4.Preliminary examination(2) ②5.In the consultation room(1)</p> <p>7: ②5.In the consultation room(2)</p> <p>8: ②6.At the cashier/ ③Useful Expressions 1.Pain:Ache;Sore</p> <p>9: ③2.Instructions</p> <p>10: ③3.Diagnosis/③4.The cause of the ache or pain/ ③5.Symptoms</p> <p>11: ③6.Checks & treatment/ ③7.After checks & treatment</p> <p>12: ④⑤Useful Expressions for Acupuncturists</p> <p>13: ⑦Case Studies 1.A conversation between an acupuncturist and a patient(1)</p> <p>14: ⑦ 1.A conversation between an acupuncturist and a patient(2)</p> <p>15: 試験解説/ English Conversation Useful at a Stadium for Acupuncturists - Basic English Conversation with Athletes</p>							
<p>【テキスト】 『Basic English Conversation for Acupuncturists, Judo-Therapists and their Receptionists 鍼灸師、柔道整復師、受付係のための英会話入門 第2版』 山川より子 (技秀堂)</p>							
<p>【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。</p>							
<p>【授業実施上の留意点】 特になし</p>							

講義要綱

【授業科目名】社会福祉概論	【分野】基礎	【学年】1	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】楠 秀樹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 社会福祉・社会保障制度に関する基礎知識を、社会的動向との関連において、理解する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 社会保障制度について、わかりやすく説明することができる。 社会福祉の各領域について、あはき師の活動と関連させて、表現することができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >	< 後 期 >		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援という考え方ー社会福祉の理論と歴史 2. 生活を支える支援システムー社会福祉のしくみ 3. 貧困を考える1ー生活保護と就労支援 4. 貧困を考える2ー生活保護と就労支援 5. 子供の育ちを考えるー子どもと社会福祉 6. 家族の今・むかしー家族と社会福祉 7. ジェンダーから見た社会福祉 8. 自立を支えるー障害者と障害者自立支援法 9. 高齢化社会を考えるー 少子化と介護保障システム 10. 支え合う・助け合うー地域コミュニティと社会福祉 11. ホスピスケアとはー看護と社会福祉 12. 子どもの学習と発達を支えるー 教育現場での社会福祉の役割 13. こころを支えるー心理臨床と社会福祉 14. ともに暮らせる社会ー多文化共生と社会福祉 15. 試験解説・まとめ 		
【テキスト】 岡田忠克編『よくわかる 社会福祉』ミネルヴァ書房 参考書は、講義時間内に、適宜紹介する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 社会福祉の考え方を学ぶほか、社会統計の読みとり、文章表現、そうしたことに力を入れて、講義を行いたいと考えています。			

講義要綱

【授業科目名】解剖学Ⅰ(骨格系)	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】阿久津裕彦	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 人体の構造と形態を中心に機能および臨床と関連を学ぶ。(骨格系)			
【行動目標・到達目標:SBOs】 解剖学用語を正しく理解し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。			
【 授 業 内 容 】			
< 前 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 肉眼解剖学と各器官系列(系統解剖学)について 2. 器官系と器官・中空器官と実質器官の詳細 3. 細胞と組織の詳細 4. 組織の詳細 5. 筋組織・神経組織の詳細 6. ヒトの発生の詳細 7. 骨総論 8. 関節の詳細 9. 頭蓋骨・脳頭蓋・顔面頭蓋の骨とその位置 10. 内頭蓋底と外頭蓋底の詳細 11. 体幹の骨 12. 上肢の骨 13. 下肢の骨Ⅰ 14. 下肢の骨Ⅱ 15. まとめ 			
【テキストなど】 テキスト:「解剖学」 なお、必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】解剖学Ⅱ(筋系)	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】阿久津裕彦	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 人体の構造と形態を中心に機能および臨床と関連を学ぶ。(筋系)			
【行動目標・到達目標:SBOs】 解剖学用語を正しく理解し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。			
【 授 業 内 容 】			
< 前 期 >			
1. 筋系総論			
2. 筋の為の神経総論			
3. 上肢の筋Ⅰ			
4. 上肢の筋Ⅱ			
5. 上肢の筋Ⅲ			
6. 上肢の筋Ⅳ			
7. 体幹の筋			
8. 頭部の筋			
9. 頸部の筋			
10. 下肢の筋Ⅰ			
11. 下肢の筋Ⅱ			
12. 下肢の筋Ⅲ			
13. 下肢の筋Ⅳ			
14. 下肢の筋Ⅴ			
15. まとめ			
【テキストなど】 テキスト:「解剖学」 なお、必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】解剖学Ⅲ(神経系)	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】阿久津裕彦	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 人体の構造と形態を中心に機能および臨床と関連を学ぶ。(神経系)			
【行動目標・到達目標:SBOs】 解剖学用語を正しく理解し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。			
【 授 業 内 容 】			
< 後 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系総論 2. 脳の発達 3. 脳脊髄液 4. 脳幹部 5. 延髄・橋・中脳 6. 視床と視床下部 7. 間脳・小脳・大脳 8. 大脳皮質と大脳髄質 9. 脊髄 10. 末梢神経 11. 脳神経 12. 脊髄神経・交感神経と副交感神経 13. 神経叢Ⅰ 14. 神経叢Ⅱ 15. まとめ 			
【テキストなど】 テキスト:「解剖学」 なお、必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】解剖学Ⅳ(循環器系)	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】阿久津裕彦	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 人体の構造と形態を中心に機能および臨床と関連を学ぶ。(循環器系)			
【行動目標・到達目標:SBOs】 解剖学用語を正しく理解し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。			
【 授 業 内 容 】			
< 後 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 循環路(肺・体) 2. 心臓壁・心膜・弁 3. 心臓(位置・栄養血管・神経・大動脈の構成) 4. 動脈系Ⅰ 5. 動脈系Ⅱ 6. 動脈系Ⅲ 7. 動脈系Ⅳ 8. 動脈系Ⅴ 9. 動脈系Ⅵ 10. 静脈系Ⅰ 11. 静脈系Ⅱ 12. 静脈系Ⅲ 13. リンパ系Ⅰ 14. リンパ系Ⅱ 15. まとめ 			
【テキストなど】 テキスト:「解剖学」 なお、必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】解剖学Ⅴ(内臓系)	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】島田 和幸	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【一般目標:GIO】 人体の構造と形態を中心に機能および臨床と関連を学ぶ。(腹部諸器官)			
【行動目標・到達目標:SBOs】 人体構造を正しく理解し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。			
【 授 業 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 解剖学概論	2. 消化器系Ⅰ(概論)	3. 消化器系Ⅱ(口腔)	4. 消化器系Ⅲ(歯・舌)
5. 消化器系Ⅳ(咽頭・食道)	6. 消化器系Ⅴ(胃)	7. 消化器系Ⅵ(小腸・大腸)	8. 肝臓・膵臓概論
9. 肝臓・膵臓の構造	10. 消化器系の総復習	11. 呼吸器系概論	12. 呼吸器系Ⅰ
13. 呼吸器系Ⅱ	14. 呼吸器系Ⅲ	15. 前期の総復習	
1. 泌尿器系概論	2. 泌尿器系Ⅰ	3. 泌尿器系Ⅱ	4. 生殖器系Ⅰ
5. 生殖器系Ⅱ	6. 生殖器系Ⅲ	7. 生殖器系Ⅳ	8. 泌尿生殖器系の総復習
9. 人体の発生Ⅰ	10. 人体の発生Ⅱ	11. 内分泌系概論	12. 内分泌系Ⅰ
13. 内分泌系Ⅱ	14. 内分泌系Ⅲ	15. 後期の総復習	
【テキストなど】 テキスト:「解剖学」 なお、必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】生理学 I	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】佐藤 斎	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 細胞や組織、器官等の個々の働きを知ると共に、これらがどの様に互いに連絡を取り合って統一体として働いているか、また、これらが複数集まって作るシステムとしての新たな働きを学ぶことによって人間に対する理解を深める。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 生理学用語を正しく理解し、それらを臨床の場で正しく使うことができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学の基礎:生理学とは、人体の構成要素 2. 生理学の基礎:からだの化学的構成 3. 生理学の基礎:細胞の機能的構造 4. 生理学の基礎:拡散、浸透、ろ過、受動輸送と能動輸送、膜動輸送 5. 体液の生理学:体液の区分と組成 6. 体液の生理学:体液恒常性を維持するしくみ 7. 血液の生理学:血液の役割、血液の組成 8. 血液の生理学:免疫機構 9. 血液の生理学:血液型、血液の凝固 10. 循環の生理学:心臓の機能 11. 循環の生理学:血管系、リンパ管系 12. 循環の生理学:循環の調節 13. 循環の生理学:局所循環 14. 循環の生理学:脳脊髄液 15. 期末試験の解答と解説 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸の生理学:呼吸器の構造、換気 2. 呼吸の生理学:ガス交換、血液中の酸素・二酸化炭素の運搬 3. 呼吸の生理学:呼吸調節のしくみ、呼吸の異常、特殊環境下の呼吸、人工呼吸 4. 消化と吸収:消化器系の働き、消化管運動とその調節 5. 消化と吸収:消化液の分泌機序 6. 消化と吸収:消化、吸収 7. 消化と吸収:消化管ホルモン、肝臓と胆道系 8. 栄養と代謝:代謝 9. 栄養と代謝:中間代謝、エネルギー代謝 10. 体温とその調節:体温、体温の生理的変動、熱の産生、熱放散 11. 体温とその調節:体温調節、うつ熱と発熱、気候馴化 12. 尿の生成と排泄:腎の構造と機能、糸球体ろ過 13. 尿の生成と排泄:尿細管における再吸収 14. 尿の生成と排泄:尿細管における分泌、尿の成分、排尿 15. 期末試験の解答と解説 	
【テキストなど】 テキスト:「生理学」第3版 参考書:Essential細胞生物学 原著第4版(南江堂)中村、松原(訳)、標準生理学 第8版(医学書院)小澤、福田(監修)、ギャング生理学 原著25版(丸善出版)岡田(監修)、生理学テキスト 第8版(文光堂)大地陸男(著)			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行なう。			
【授業実施上の留意点】 教科書の講義予定の部分をあらかじめ読んでおく。学んだことは、記憶が薄れる前に絶えず復習し、記憶として固定するように努めること。			

講義要綱

【授業科目名】老年生理学	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】池本 英志	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 高齢者の生理学的特徴と変化を理解し、高齢者に対しての身体機能維持・改善における運動訓練による影に理解を深める。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 人間の成長と発達、老化について理解する。 高齢者特有の骨粗鬆症、認知症、運動器疾患などについて理解する。 介護保険法について学び、介護予防と高齢者に対する身体的影響を理解する。			
【 授 業 内 容 】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達と老化 2. 高齢者の身体的変化① 3. 高齢者の身体的変化② 4. 高齢者の精神的変化①(認知症) 5. 高齢者の精神的変化②(認知症) 6. 高齢者に好発する外傷、疾病① 7. 高齢者に好発する外傷、疾病② 8. ロコモティブシンドローム 9. 介護保険制度① 10. 介護保険制度② 11. 介護保険制度③ 12. 機能訓練指導の目的と禁忌 13. 機能訓練プログラム作成と評価 14. 機能訓練で提供する運動と要点 15. まとめ 			
【テキストなど】 テキスト:「柔道整復師と機能訓練指導」 その他: 必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】スポーツ生理学	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】池本 英志	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】 競技者の生理学的特徴・変化について理解し、競技者に関する身体機能維持・改善における運動訓練の背景について理解する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 栄養と代謝、運動の強度と筋線維について理解する。 トレーニングによる呼吸器、循環器系、エネルギー供給能力、筋線維の変化について理解する。 コンディショニング方法と理論、コーチング理論を理解する。 競技者の精神的変化について理解する。			
【 授 業 内 容 】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ生理学とは 2. スポーツ生理学の化学的基礎① 3. スポーツ生理学の化学的基礎② 4. 骨格筋の構造と機能 5. 神経系とスポーツ 6. 呼吸器系とスポーツ 7. 循環器系とスポーツ 8. 内分泌系とスポーツ 9. 体液・血液とスポーツ 10. スポーツとコンディショニング 11. スポーツと体温調節 12. スポーツと年齢 13. スポーツにおける性差 14. さまざまなトレーニング 15. まとめ 			
【テキストなど】「1から学ぶスポーツ生理学 第2版」ナツプ テキスト： その他：必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】外科学概論	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】浅谷健介	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【一般目標:GIO】 臨床で遭遇する外科疾患の基本を理解し、適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、医学的知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 実際の臨床の場において患者の訴えを的確に聴取することができるように理解を深める。 実際の臨床の場において業務範囲内外の鑑別が正しくできるように検査も含め知識を深める。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 外科学とは・損傷①	2. 損傷②	3. 創傷	4. 熱傷
5. 炎症と外科感染症	6. 腫瘍①	7. 腫瘍②	8. ショック①
9. ショック②	10. 輸血、輸液①	11. 輸血、輸液②	12. 消毒と滅菌
13. 手術	14. 麻酔①	15. 麻酔②とまとめ	
1. 移植と免疫①	2. 移植と免疫②	3. 出血と止血①	4. 出血と止血②
5. 心配蘇生法①	6. 心配蘇生法②	7. 脳神経外科疾患①	8. 脳神経外科疾患②
9. 甲状腺・頸部疾患	10. 胸壁・呼吸器疾患	11. 心臓・脈管疾患	12. 乳腺疾患
13. 腹部外科疾患①	14. 腹部外科疾患②	15. まとめ	
【テキスト】 テキスト:「外科学概論」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

講義要綱

【授業科目名】医療概論	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】橋和豊 水元宏哉	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】 医療の歴史、現代の医学、医療制度および医療従事者の倫理について学ぶ。 医療を担う一員として、広い視野に立って深く洞察できる人間性・人格を持つ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 西洋と東洋の医学がどのように発展してきたのかなど、医学の変遷を医学史的に理解できる。 西洋医学、東洋医学それぞれの現状と抱えている問題を取り上げ、医学や医療がどうあるべきかなど自分なりの考えを持てるようになる。医の倫理では今日、日常的な会話で入り込む言葉の把握ができそれらに対ししっかりとした意見を持てるようになる。			
【 教 育 内 容 】			
< 後 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学史序説 東洋医学の起源 2. 古代の医学 エジプト医学 バビロニア医学 3. 古代ギリシア医学 ヒポクラテス医学 4. ルネッサンスの医学 17世紀の医学 5. 18世紀の医学 6. 19世紀以降の医学 7. 医学と医療の歴史① 8. 医学と医療の歴史② 9. 現代の医学と医療① 10. 現代の医学と医療② 11. 国民医療費 医療保険の仕組み 12. 柔道の歴史と柔道整復師 13. 医療倫理① 脳死、ターミナルケア、尊厳死など 14. 医療倫理② バイオエシックス、インフォームドコンセントなど 15. 総復習 			
【テキスト】 テキスト:特になし 適時、必要に応じてプリントを配布する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。プリントの通読を基本とする。 基礎医学に対する知識が必要となる為、知識に乏しいものはあらかじめ予習をしておくこと。			

講義要綱

【授業科目名】柔道 I	【分野】専門基礎分野	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】難波英樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 柔道の実技・理論の学習を通じ、柔道整復師として全人的な人間形成を目指す。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復のルーツである武道を学ぶことにより、柔道整復手技の成立を探究し、臨床の場における手技技術を向上させる。			
【 授 業 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 歴史及び目的	1. 投技、固技	2. 投技、固技	2. 投技、固技
2. 柔道の意義	3. 投技、固技	3. 投技、固技	3. 投技、固技
3. 礼法	4. 投技、固技	4. 投技、固技	4. 投技、固技
4. 柔道の基本	5. 投技、固技	5. 投技、固技	5. 投技、固技
5. 柔道の基本	6. 投技、固技	6. 投技、固技	6. 投技、固技
6. 柔道の基本	7. 投技、固技	7. 投技、固技	7. 投技、固技
7. 柔道の基本	8. 審判法	8. 審判法	8. 審判法
8. 柔道のルール	9. 投技、固技、乱取り	9. 投技、固技、乱取り	9. 投技、固技、乱取り
9. 投技	10. 投技、固技、乱取り	10. 投技、固技、乱取り	10. 投技、固技、乱取り
10. 投技	11. 投技、固技、乱取り	11. 投技、固技、乱取り	11. 投技、固技、乱取り
11. 投技	12. 投技、固技、乱取り	12. 投技、固技、乱取り	12. 投技、固技、乱取り
12. 投技、固技	13. 投技、固技、乱取り	13. 投技、固技、乱取り	13. 投技、固技、乱取り
13. 投技、固技	14. 投技、固技、乱取り	14. 投技、固技、乱取り	14. 投技、固技、乱取り
14. 投技、固技	15. まとめ	15. まとめ	15. まとめ
15. まとめ			
【テキストなど】 テキスト: なし。必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の試験において評価を行なう。			
【授業実施上の留意点】 なし			

講義要綱

【授業科目名】基礎柔道整復学 I	【分野】専門分野	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】水元宏哉 伊藤浩二	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 柔道整復学の基礎を理解し、骨折に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲内外の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >水元宏哉		< 後 期 >伊藤浩二	
1. ガイダンス・概説 ・沿革、倫理ほか	2. 鎖骨骨折	1. 鎖骨骨折	
2. 概論・人体に加わる力 ・基礎的状态・加わる力	3. 鎖骨骨折	2. 鎖骨骨折	
3. 骨の形態と機能	4. 鎖骨の脱臼	3. 鎖骨骨折	
4. 骨損傷の概説・骨損傷の分類①	5. 鎖骨の脱臼	4. 鎖骨の脱臼	
5. 骨損傷の分類②	6. 肩甲骨骨折	5. 鎖骨の脱臼	
6. 骨損傷の症状①	7. 上腕骨近位端部骨折	6. 肩甲骨骨折	
7. 骨損傷の症状②	8. 上腕骨外科頸骨折	7. 上腕骨近位端部骨折	
8. 骨損傷の症状③	9. 上腕骨外科頸骨折	8. 上腕骨外科頸骨折	
9. 骨損傷の合併症①	10. 上腕骨外科頸骨折	9. 上腕骨外科頸骨折	
10. 骨損傷の合併症②	11. 上腕骨外科頸骨折	10. 上腕骨外科頸骨折	
11. 小児骨損傷・高齢者骨損傷の特徴	12. 肩関節脱臼	11. 上腕骨外科頸骨折	
12. 骨損傷の癒合日数・骨折の治癒経過 ・骨損傷の予後・治癒に影響を与える因子	13. 肩関節脱臼	12. 肩関節脱臼	
13. 骨折の治療法; 整復法	14. 肩関節脱臼	13. 肩関節脱臼	
14. 骨折の治療法; 固定法	15. まとめ	14. 肩関節脱臼	
15. まとめ		15. まとめ	
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

講義要綱

【授業科目名】基礎柔道整復学Ⅱ	【分野】専門分野	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】橘 和豊	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 柔道整復学の基礎を理解し、捻挫・脱臼に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲内外の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 関節の運動方向と骨の名称	1. 筋の形態と機能	2. 筋の形態と機能	2. 筋の形態と機能
2. 関節の構造と機能	3. 筋の損傷の分類	4. 筋の損傷の症状と治癒機序	3. 筋の損傷の分類
3. 関節の構造と機能	5. 筋損傷の治療法①	6. 筋損傷の治療法②	4. 筋の損傷の症状と治癒機序
4. 関節損傷の概説と分類	7. 腱の損傷と分類	8. 腱損傷の症状	5. 筋損傷の治療法①
5. 関節構成組織損傷①(関節包・靭帯損傷)	9. 腱損傷の治癒機序	10. 腱損傷の治療法	6. 筋損傷の治療法②
6. 関節構成組織損傷②(関節軟骨損傷)	11. 神経の構造と機能	12. 腱反射とデルマトーム	7. 腱の損傷と分類
7. 関節構成組織損傷③	13. 神経損傷の分類	14. 神経損傷の症状と治癒機序	8. 腱損傷の症状
8. 脱臼の定義と概説、発生頻度	15. まとめ		9. 腱損傷の治癒機序
9. 脱臼の分類①			10. 腱損傷の治療法
10. 脱臼の分類②			11. 神経の構造と機能
11. 脱臼の症状			12. 腱反射とデルマトーム
12. 脱臼の合併症			13. 神経損傷の分類
13. 脱臼の整復障害			14. 神経損傷の症状と治癒機序
14. 脱臼の整復法			
15. まとめ			
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

講義要綱

【授業科目名】基礎柔道整復学Ⅲ	【分野】専門分野	【学年】1年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】水元宏哉	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 柔道整復学の基礎を理解し、骨折、脱臼、軟部組織損傷に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲内外の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。			
【 教 育 内 容 】			
< 後 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価①(評価の手順と流れ) 2. 評価②(施術録の扱いと記載) 3. 整復法 4. 固定法①(目的、種類、肢位、期間) 5. 固定法②(固定材料) 6. 手技療法① 7. 手技療法② 8. 手技療法③ 9. 運動療法① 10. 運動療法② 11. 物理療法① 12. 物理療法② 13. 指導管理① 14. 指導管理② 15. まとめ 			
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

講義要綱

【授業科目名】基礎柔道整復学Ⅳ		【分野】専門分野		【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】 水元 宏哉	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2	
【一般目標:GIO】 柔道整復学理論の基礎を学習し、柔道整復学のエビデンスを理解する。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 臨床の場において柔道整復術の理論的根拠を理解し、正しく活用することができる。					
【 教 育 内 容 】					
< 前 期 >			< 後 期 >		
1. 骨の構造と機能		1. 筋の構造と機能			
2. 頭蓋骨の構造		2. 上肢の筋の骨折の転位①			
3. 胸郭の構造		3. 上肢の筋の骨折の転位②			
4. 胸郭の構造と外傷の好発部位		4. 上肢の筋の骨折の転位③			
5. 上肢の骨の構造と外傷の好発部位①		5. 下肢の筋の骨折の転位①			
6. 上肢の骨の構造と外傷の好発部位②		6. 下肢の筋の骨折の転位②			
7. 上肢の骨の構造と外傷の好発部位③		7. 上肢の筋の評価法と運動療法			
8. 上肢の骨の構造と外傷の好発部位④		8. 下肢の筋の評価法と運動療法			
9. 上肢の骨の構造と外傷の好発部位⑤		9. 上肢の物理療法・指導管理			
10. 下肢の骨の構造と外傷の好発部位①		10. 下肢の物理療法・指導管理			
11. 下肢の骨の構造と外傷の好発部位②		11. 上肢の骨・筋の総復習			
12. 下肢の骨の構造と外傷の好発部位③		12. 上肢の骨・筋の総復習			
13. 下肢の骨の構造と外傷の好発部位④		13. まとめ			
14. 下肢の骨の構造と外傷の好発部位⑤					
15. 脊椎の骨の構造と外傷の好発部位①					
16. 脊椎の骨の構造と外傷の好発部位②					
17. まとめ					
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。					

講義要綱

【授業科目名】基礎柔道整復学VI	【分野】専門分野	【学年】1年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】片桐陽	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 保存療法、観血療法適応の疾患の鑑別をし、治癒経過を理解し治療目標の設定が適切にできるようにする。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 各疾患の治癒経過と期間を理解する。 治癒経過を判断する各検査法を理解し実施できる。 治癒経過に応じた後療法を理解し実施できる。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >			
1. 保存療法と観血療法の判断①	1.		
2. 保存療法と観血療法の判断②	2.		
3. 骨折の治癒経過と画像	3.		
4. 骨癒合日数と治癒に影響を与える因子	4.		
5. 脱臼の治癒経過と固定期間	5.		
6. 軟部組織損傷の治癒経過	6.		
7. 評価、治療計画の設定	7.		
8. 治癒経過に応じた固定肢位	8.		
9. 治療経過を判断する検査法(MMT)	9.		
10. 治療経過を判断する検査法(周径、可動域測定)	10.		
11. 治療経過を判断する検査法(周径、可動域測定)	11.		
12. 治療経過に応じた後療法①	12.		
13. 治療経過に応じた後療法②	13.		
14. 治療経過に応じた後療法③	14.		
15. まとめ	15.		
【テキスト】 テキスト：なし ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

講義要綱

【授業科目名】柔道整復実技Ⅰ		【分野】専門分野	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】伊藤浩二 水元宏哉	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 柔道整復学の基礎を理解し、適切な評価法と治療法を実施できるように知識ならびに技能について習得する。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 医療面接について学び、医療人として適切な礼儀、作法、診察法を習得する。 包帯固定などの固定法を学ぶ。				
【 教 育 内 容 】				
< 前 期 >伊藤		< 前・後 期 >水元		
1. 医療面接①	1. 冠名包帯法①	2. 冠名包帯法②	3. 冠名包帯法③	4. 冠名包帯法④
2. 医療面接②	5. 硬性材料を用いた下肢の基本包帯法	6. 装具、松葉杖の使い方	7. ギプス固定①	8. ギプス固定②
3. 医療面接③	9. 厚紙福祉固定①	10. 厚紙副子固定②	11. テーピング法①	12. テーピング法②
4. 医療面接④	13. 冠名包帯法及び各種固定法の復習と確認	14. 実技試験と練習	15. まとめ	
5. 基本包帯法①				
6. 基本包帯法②				
7. 基本包帯法③				
8. 硬性材料を用いた上肢の基本包帯法①				
9. 硬性材料を用いた上肢の基本包帯法②				
10. 三角巾の扱い方				
11. 基本包帯法の復習				
12. 基本包帯法の復習と確認				
13. 基本包帯法の復習と確認				
14. 実技試験と練習				
15. まとめ				
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。				

講義要綱

【授業科目名】臨床実習Ⅰ		【分野】専門分野	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】伊藤浩二	【授業コマ数】23	【授業時間数】45	【単位数】1
【一般目標:GIO】 実際の治療の場で見学・実習をすることにより、柔道整復師としての態度・知識・技術を習得する。 診察の基礎を学ぶ。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 臨床見学と体験実習を通じて、医療従事者としての態度、実務技能を身に付ける。 骨、筋、靭帯の触診術を習得し、各疾患の鑑別力を身に付ける。 関節可動域測定、深部腱反射の知識と技術を習得する。				
【 教 育 内 容 】				
< 前 期 >				
1. 医療面接①		16. 治療院見学/下肢の筋・靭帯の触診②		
2. 医療面接②		17. 模擬患者のロールプレイ		
3. 治療院見学/上肢の骨の触診		18. 模擬患者のロールプレイ		
4. 治療院見学/上肢の骨の触診		19. 模擬患者のロールプレイ		
5. 治療院見学/下肢の骨の触診		20. 模擬患者のロールプレイ		
6. 治療院見学/下肢の骨の触診		21. 模擬患者のロールプレイ		
7. 治療院見学/体幹の骨の触診		22. 模擬患者のロールプレイ		
8. 治療院見学/体幹の骨の触診		23. 模擬患者のロールプレイ		
9. 治療院見学/関節の可動域測定①				
10. 治療院見学/関節の可動域測定②				
11. 治療院見学/関節の可動域測定③				
12. 治療院見学/関節の可動域測定④				
13. 治療院見学/上肢の筋・靭帯の触診①				
14. 治療院見学/上肢の筋・靭帯の触診②				
15. 治療院見学/下肢の筋・靭帯の触診①				
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験・レポートなどで評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。				